

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2296800028		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム菊川 (東ユニット・西ユニット合同)		
所在地	静岡県菊川市堀之内1464		
自己評価作成日	平成24年10月23日	評価結果市町村受理日	平成24年12月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2010_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2296800028-008&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2010_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2296800028-008&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階
訪問調査日	平成24年10月31日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご入居者様が『愛の家グループホーム菊川』で生活をされて、本当に良かったと思って頂ける様なホームを目指しております。全国のグループホームを対象に毎年行っている『ご家族様アンケート』については、ご家族様の満足度として毎年向上している結果が出ております。このような結果も踏まえ、ご家族様とのつながりも大事にしていきます。入居者様が落ち着いて生活をされ、ご家族様も安心して自らの生活を送ることが出来る関係になればと思います。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

在来駅から徒歩5分の好立地にありながら、日中も静かに過ごすことができる場所に事業所はあります。出迎えの挨拶、擦れちがったときの会釈、夜勤者が退去する折の挨拶等々、“朗らかな声でひと声かける”、“笑顔で挨拶する”、ことが徹底されていて、職員の発する爽やかな雰囲気にも溢れています。例えば朝起きた時に同じ動線で動けるよう、入居時には在宅での部屋のレイアウトや雰囲気を視認して、極力近い形に実現させています。また、ケアプランの合意形成においても事業所が家庭に出向き傾聴に努めています。これらの事柄が認められ、法人内の事業所150社余が一斉に取り組んだ顧客満足度調査の結果も昨年全国10位で、本年は8位と躍進しています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 愛の家グループホーム菊川 (東ユニット・西ユニット合同)	会社の運営理念が有り、それとは別にホーム独自の理念を作り、それに沿って入居者様の介護にあたっている。毎朝朝礼時に運営理念を唱和し、意識を高め理念の共有を図っている。	朝には法人理念、夕には事業所理念を唱和し、意識の継続に努めています。職員の立ち居振る舞いを見るにつけ、理念が浸透していることが視えました。また、管理者も自発的に動くようになった職員を頼もしく感じているところです。	実現できていることもあり、「さらなる目標はないか」職員間で振り返る機会を設けることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会主催の清掃活動に、入居者様職員と共に参加したりしている。散歩に出掛けた時や買い物に出掛けた時などは、挨拶をするように意識している。	地域の特養に誘われ「体験介護講座の見学コース」になる等、知名度とともに信頼も高まっています。区画整理で事業所の番地が変わり、地域での関係変化もあるため、開設の初心に戻り、あらためて取り組む心構えをしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学校からの福祉体験授業の受け入れなどは、積極的にやっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では地域の方、民生委員の方、市職員、ホーム職員、入居者様加わり取り組み状況を伝えたり、その場で様子を見て頂いております。	福引大会などのイベントも用意した「ご家族様の集い」を運営推進会議と抱合せて開催し、家族の参加を促進させる工夫もみられます。市、包括の職員のほかに近隣の特養の施設長の参加もあり、地域に根差した場がつけられています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	随時行政への報告や連絡を取り合っている。地域交流活動などの時間には、行政へも顔を出し情報交換も行っている。	事業所は日常的に書面を直接届けていて、市役所の担当者も毎回運営推進会議に参加してくれ、相談にのってもらいやすい関係にあります。また、包括を通じて市からキャラバンメイトの講師依頼もあり、協力しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議などで勉強会を行い取り組んでいる。	法人で「身体拘束の取扱いに関する要綱」を定めています。また、事業所内でも「禁止用語」「禁止動作」をまとめており、内部研修にも取り組み、認識の共有化を図っています。新人には理解してもらいたい大切な事柄として、先んじて指導しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議などで勉強会を行い取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議を利用し、ホーム内研修を行いました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や運営推進会議などにより、機会を設けている。	法人が毎年顧客満足度調査を実施しており、自らの改善点をよく知っています。また、改善向上の力も高く、前年全国10位だったのが本年は8位へと躍進しています。家族会を盛り上げる工夫もあり、家族との関係構築に努めていることが覗えます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等の場や、ユニット会議などの開催時意見等を聞いている。年1回ではあるが、契約更新時に個人面接を行っている。	昨年の目標にも掲げ、職員意見の吸い上げに力を入れています。ホーム内研修において、テーマを決め意見を募ったり、フリートークタイムを設けています。また、事前に意見を記載するシートも配布し、発言を活性化させる工夫もみられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社より全国統一アンケート調査などを実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社からの研修資料などを活用して取り組みを行っている。外部の研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	システムデザイン研究所様の働きかけにより、他施設との合同研修に参加しました。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期はご本人様、ご家族様の不安も大きいです、より多くの情報を集め、要望にも耳を傾けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期にはご家族様が一番困っている事に注意してケアし、またご家族様にも連絡を取り、安心していただけるよう関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族が共に必要としている支援が出来るような対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人と同じ目線に立ち、生活できるよう努力しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共に情報を共有し、ご家族の気持ちもお聞きし、共に支え合っていく関係を築いています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前になるべく多くの情報を聞き、支援が出来る様努めています。	家族にできることは協力してもらい、連れだって墓参りなどに出掛ける利用者もいます。また、在宅に近い居室の空間設定を旨としていて、固有の居室が実現しています。“女子会”と命名した利用者同士のお茶会を定期的で開催し、ここでの関係の場づくりに努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活をしていく上で、入居者様同士がよい関係を築いていけるよに間に入ったり、一人ひとりが支え合うようケアしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたあとでも、時には連絡を取り合い、ホームにも遊びに来ていただいております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様やご本人の希望を聞き入れての暮らしをして頂けるように、ケアプランにて計画している。	玄関前のベンチで談笑したり、茶話会を定期開催するなど、利用者の発語を増やす工夫がみられます。センター方式を導入し、回想法を活用しながら、自分史にも取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ホームに入り環境の変化はありますが、今までの生活歴を把握し、馴染みの物は取り入れたり、その人らしい暮らしが出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方個人の過ごし方ができるように努めている。職員が記録したものを全員共有して見られるように、ユニット内にファイルが置いてある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	話し合いの場(ユニット会議)はあるが、時間が足りない場合が多い。	現状把握から気づきをもってもらうために、センター方式をアレンジした“気づきシート”を作成していて、一人ひとりの特性が反映された充実のプランを確認しました。法人がおこなっている顧客満足度調査のプランについての項目でも家族から高い評価を得ています。	職員間の風通しがよくなった結果、会議での発言も増え、時間内でのカンファレンスが足りなくなっていることが課題です。“気づきシート”をさらにバージョンアップさせる等、何らかの効率改善を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有は出来ているが、気づきや工夫があまり記録に残されていない。(細かい部分の記録が少ない)		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能に応じきれていないぶんがある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で開催しているイベントに出掛けられるよう支援している。文化会館、地区のコミュニティなど、イベントへの参加		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族様の希望、協力によりかかりつけ医との関係を築き、受診支援を行っている。	事業所の協力医に替えるかどうかは、家族に判断してもらっています。通院介助は家族にお願いしていますが、無理な場合は職員が対応しています。受診結果は「受診記録簿」、薬事情報は「投薬一覧表」、契約看護師のアドバイスや指示は「看護申し送り表」に記載し、情報を共有し有事に備えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との連絡は、出勤の日及び看護申し送り表により、入居者様の状況報告や相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際し、介護サマリーを提出し情報交換に努め、早期退院出来る様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に同意書を提示し、ホームで対応出来る事を説明している。(H24年4月より実施)	契約時に看取りの指針を提示し、家族と合意形成しています。家族の意向に応え、看取った例も1件あります。今後も家族の要望があれば出来る限りの対応をしたいと考えています。また、死生観の学習などを家族と職員で積んでゆく予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修にて行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的(年2回)に避難誘導訓練を行っている。運営推進会議の場で行ったりして、地域の方への参加も働きかけている。	設定を替え年2回取り組むほか、市と連携した訓練にも取り組んでいます。消火器の数を増やすとともに、新たに簡易消火具も3ヶ所設置しています。また、法人作成の「防火用自主点検表」を用い、月毎の防火体制の見直しにも余念がありません。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った言葉かけや対応をしている。	担当職員と管理者で利用者一人ひとりの秀でている点、感謝したい点について話し合い、敬老会の日に表彰状を届けています。「ジェントルマンで賞」「お手伝いありがとうございます」といった賞状からは、自己肯定感を高めていることが十分伝わってきます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望を聴いたり、決定できる場面を作ったり、それができる環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員がその人らしい暮らしができるようには意識しているが、まだ全員の入居者様が一人ひとりの希望に沿った過ごし方にはなっていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝起きて食堂に集まった時に、身だしなみのチェックを行い支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや小さくカットするなど、その日のメニューにより入居者様をお願いをしている。片付けについても、色々な方が関わられるように作業を分担して行っている。(洗う方、拭く方)	メニューを利用者が白板に書いたり、職員が隣に付き添うなかご飯を盛り付けたり等、役割をもってもらえるように支援しています。「これ美味しいから食べてみて」と利用者同士での会話もあり、日頃の関わりの充実さが覗えます。誕生日には手作りケーキを皆で楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本社からのメニュー表を元に食事を提供している。水分量についても、バイタル表内に項目を作り、1日を通しての水分量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、自分で出来る方は自分で行い、難しい方は職員にて実施。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間でのトイレ誘導や、ご本人の状況によってリハビリパンツや尿とりパッドの使用を行い個別にて対応している。	時間と本人の様子から誘導していて、改善向上した例もあります。家族の負担を考え、管理者から職員へパッドなどの消耗品の価格について話す機会も設けています。費用面への意識がケアへの工夫にも繋がるよう、今後も本件の指導を続ける予定です。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症状に効果がある食物(玄米、ヨーグルト)や飲み物(牛乳)を取り入れ、活動面についても散歩に行き便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日の設定はしていないが、その日のご本人の入浴希望を確認し、なるべく希望に沿うように援助している。体調面の考慮や、入っていない日数により判断する場合もある。	入浴嫌いな人への対応もあり、チェック表で3日空かないよう気遣ったり、足浴や清拭などの代替ケアの工夫もあります。利用者毎にお湯を張り替え、清潔保持に努めるとともに、入浴回数を増やすことも検討しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別に入眠時間を把握し、安心して休んでいただけるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも薬の用法、量が見られるように、ファイルを各ユニットに準備している。毎回の受薬時、最新の処方内容のものをファイルに入れて管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔仕事で行っていたことや、女性では家事仕事などをご本人様のペースに合わせ、行っていただく事を意識し支援している。男性の行うことについて検討する必要がある。(どうしても家事的な仕事になりがち)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と一緒に外出される事は、限られたご家族のみ出来ている。地域の人々との協力での外出は出来ていない。計画をしてからの外出が多く、その日の希望に沿っての支援はなかなか出来ていない。	外へ出る時間帯を設けていて、1日に1時間程度の外気浴があります。花に水をやったり、玄関先のベンチで談笑したり、近くへの散歩をしています。また、遠出は特に計画だてていませんが、花壇を改良した畑で芋ほりをしたり、希望に応じて外食にも出掛けています。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様との相談により、現在西ユニットにてお金を所持している方はいない。今後ご家族様の了解を頂ける様であれば検討していく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人より要望があった場合は、やり取り出来る様に支援している。(年賀状などを出している)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事の時間はテレビを消して静かな音楽をかけて食事に集中できるようにしたり、毎朝空気の入替えや空調の調整を行い、快適に過ごす事が出来る様に心掛けている。	感染症対策の講習を通して職員意識が高まってきたとのことで、昨年から格段に向上した清潔空間となっています。また、備品の置き場所も確保され、5Sも確立しています。温・湿度計も設置され、換気も定期的におこない、快適に過ごせるよう取り組まれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士過ごせるように、少し離れた空間でテーブルを設けたりしている。ウッドデッキにも椅子とビーチパラソルを設置して、気分転換を図れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご自宅を訪問し、自室内の配置関係をホームでも再現出来る様にご家族様と相談して、心地良い空間となる様に心掛けている。	在宅時そのままの形に近づけるよう取り組んでいるため、居室によってレイアウトに変化があり、それぞれの家庭の匂いがして異なる雰囲気があります。居室前には担当職員の写真、氏名、抱負がカードとして掲示され、家族に役立つ工夫と受けとめました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の出入口付近には物を置かず、入居者様の動線を考慮した配置を行っている。新聞入れや本棚、清掃用具など決められた場所に置き、すぐに使用できるように考慮している。		